

平成 30年 9月一般質問 奈良県議会議員 佐藤 みつのり

自転車保険の義務化について

関西圏における自転車保険義務化の動きとして、京都・大阪・兵庫・滋賀は既に条例が制定されており、奈良県と和歌山県だけが義務化していない状況である。

今後、安全利用の促進からの観点としても条例の制定を進めるべきと考えるがどうか。

☞ 一般質問を受けて知事答弁において条例制定の検討を始める事に言及。

9月26日には県独自の条例制定を検討することを公式に発表した。

【自転車事故の増加、同時に多額の賠償責任が判決で示されている事が背景にある】

STEP.1
安全促進条例制定

STEP.2 (事業者)
保険加入を義務化

STEP.3 (一般利用者)
保険加入を義務化



県の熱中症対策と避難所運営における課題について

1) 本年度の暑さは災害級ともいえる酷暑であったが、熱中症対策として最も重要かつ有効な指標であるWBGT(暑さ指数)を県としては有効に活用できていたのか。

☞ 担当部署よりも指数を活用しきれていないとの回答がある。一般質問後、厚生委員会場で再質問を行い、担当部署より推進活動をはじめ見直しを行い、フォーラム等を活用して今後は具体的な活動を行うように努力するとの回答があった。

2) 災害時、夏場の避難所(体育館)における空調設備を導入し避難所のQOL(生活の質)を向上させるべきと考えるがどうか。

◎埼玉県では右図の様に空調設備が滞りなく避難所に配置される協定が締結されており、比較対象として質疑を行った。



学校施設(建物・設備)について

1) 体育館にも空調設備の導入を推進していくべきであり、避難所として利用される体育館の耐震状況についてはどうか。

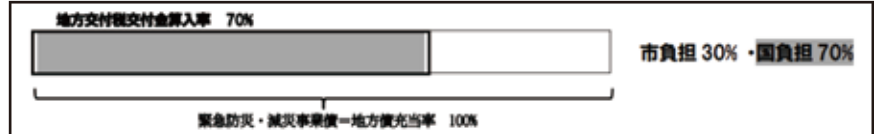
☞ 体育館の空調導入は本県においても無く、今後の課題と認識している。

2) また、老朽化が進んでいる県立高校の建物・設備について、機能を維持・向上させる為の修繕計画の内容はどうか。

☞ 非構造部材の耐震性は全国水準と比べても非常に低く、対応は急務と考えている。

また、設備状況としては専門家による各学校の確認を行い、長寿命化計画を策定し、対応をしていく予定。との答弁がされたが・・・

◎県下学校施設の長寿命化計画は平成32年度までに策定すれば良いが、【緊急防災・減災事業債制度】の使用期限は同じく平成32年までなので耐震化等の対応は計画策定より先行して行う必要性を指摘した。



【非構造部材(天井・バスケットゴール・照明等)の耐震化がなされていない割合】

県下小中学校：73.1%・・・全国平均24.5%
県立高等学校：15.2% ⇒ 構造部材では深刻な課題が・・・

唱!



県下公立小・中・高校の体育館、空調設備率はほぼ0%!
全教室に空調を入れるとしているが体育館だけは今後もほぼ0%!

【普通教室における空調設置率】
小中学校：77.4%、高等学校：68.3%
特別支援学校：99.4%

【特別教室を含む教室全体での空調設置率】
小中学校：18.4%、高等学校：48.7%
特別支援学校：96.8%

子どもの権利について

1. 県立高校の適正化計画(再編)において

⇒大人の都合で本計画を策定して進めてはいないか。そもそも、議決直前に各対象校に説明に行っているのは如何なものか、また耐震性に問題がある校舎で学ばせねばならない状況も如何なものか。県教育施設の設備一つとっても使用者(子ども)視点があるとは言い難い。

◎上記の理由により、佐藤は県立高校の適正化計画について反対の立場です。

2. 奈良県子どもの貧困会議において

⇒会議において、大人からアンケートをとって計画を立てている点を指摘、子どもからの意見も集め、参加する権利を生かす様に言及した。直後に本会委員長よりも賛同の意見があり、今後の課題とされた。

◎日本では子どもの事は大人が考える風潮が色濃く残っており、
子どもの意見を大人が実現する社会が求められています。



観光政策について

2025年に大阪万博の開催が決定されたが、県としてはどのような観光政策を打ち出していくのか。

◎訪問率は全国で5位、訪問客一人当たりの旅行中支出が5,165円と低く、(訪問率6位の福岡県は旅行中支出は52,222円/人) 訪問はして貰っているが経済効果に繋がっていない、また万博が開催されるという事でその広域インフラに対しても県としてどの様なビジョンがあるのか議論を行った。
◎データは物語る。見るだけではお金は落ちない…仕組み作りが必要!!

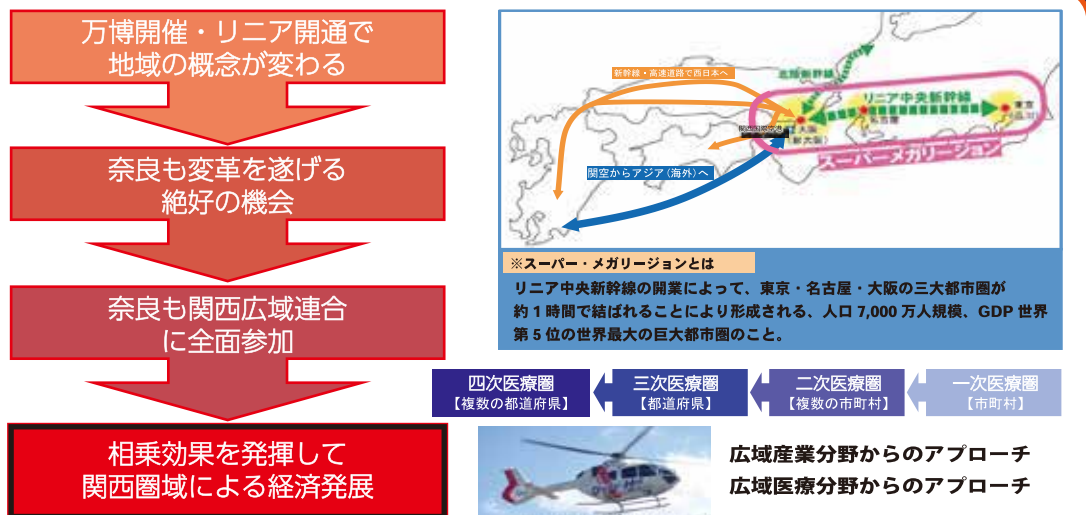


関西広域連合について・・・

1) 現在、奈良県は関西広域連合に部分参加しているが、広域医療分野においても参加するべきと考えるがどうか。

2) 将来的な視野に立った際、広域産業分野においても参加すべきであり、更には他の府県と同様に全7分野に参加すべきと考えるがどうか。

◎広域連携で十分と検討すらしない県行政(知事)、連合では広域医療分野において関西全体を四次医療圏と位置付けているにも関わらず、また万博開催が決定した今、広域産業分野においても参加すべき状況であるのは明らか、残された道は県体制を変えるしかないのか・・・



県議会議員報酬削減による削減額について

議員報酬を1割削減し、その削減額は累計で約1億4千万円であったが、県知事を含め県行政において、いかなる取組を行い県政に反映できたのか。

◎今年の10月から消費税増税が行われる見込、財源が足りないから増税するはずなのに、その傍らで人件費を増やそうとする動きがあるのでそれを諷め、削減額については少子化対策や教育関連予算に見る形で予算を調整(知事権限)する試みを要望した。

知事報酬 10%削減後は109万円・・・都道府県知事の中で39位
支給割合では11位、退職金は35,487,648円・・・全国で22位
※1.月額報酬を下げ、退職金で取り返していると言われても仕方がない。
※2.加えて特別職の期末報酬は月額報酬削減後も上がり続けている。

【ご注意下さい!】
奈良県議会議員月額報酬削減は今任期のみの条例内容です。継続するには改めて制定する必要がありますのでご注意下さい。



県議会・会派：日本維新の会4名で150万円(一人37.5万円)の被災地へ義援金を送りました。その理由は・・・議員報酬が1割削減されてから、その裏では期末報酬の支給割合を上げ続ける特別職。これに対し維新の会は反発。増額分を供託後、被災地への義援金と致しました。

起業支援について

県の産業・雇用を活性化させるため、特に奈良県内での起業を促していく事を目的とし、これまでの支援制度を見直す他、中高年世代を中心としたより積極的な支援策が必要と考えるがどうか。◎率直に申し上げて、県は金貸しのマネ事を止め、どうせ出すなら起業存続率の観点から、弁護士・税理士。社労士等の顧問料への補助とした方が良いと提言、加えて貸倒れがそのまま県の損失(県民の負担)となっていること、そして金融機関から優良な貸付先を奪っているとの観点からも資金貸付ではなく、県でしかできない支援を行い生きたお金の使い方は何かを議論しましたが、☞県としては貸付金制度を継続させ、専門家としての支援は国が設置している無料のよろず相談所に対応すると回答。これに対し、無料で相談に乗って貰う事と契約を交わして顧問料を支払い、指導して貰うのは大きな違いがある、と意見が激しく対立した。

本県の備蓄物資について

奈良県の備蓄物資における方針として、近隣府県以上に自助と共助の周知を徹底する対応が急務であると考えがどうか。
◎本県備蓄物資の現状を例に議論を交わす、県はローリングストック法を活用すべきというのが実際には普及啓発がしきれていない事を指摘、反対に地元自主防災会で生駒市の助成金を利用したローリングストック事例を紹介、また県で行っている防災士養成講座に加えて後のフォローアップを通じて自主防災会から各個人までの備蓄物資の在り方について議論を交わした。



本質問に際し、多くの弁護士・税理士・社労士・行政書士・金融関係に携わっている方々からご賛同のみならず、ご助言まで頂きましてこの場をお借りし、厚く御礼申し上げます。



後援会会長
MESSAGE
相田 浄司

【夢を託せる人を選ぶ】
私たちの生活をより良く、住み易くする為に私たちの望みを叶える手段としての選挙で、夢を託せる人を選ばなければなりません。選んだ議員が地域住民と密着して、国会議員は国の為に、県議会議員は県の為に身を粉にして改革の為の提言と活動をどれだけしたかを正しく評価しなければなりません。【佐藤みつのり】はゆるぎない信念を持って県議会刷新の為「県議会議員報酬1割削減」、「議員定数44→43人」を成し遂げました。今後も県議会刷新と奈良県の将来の発展に皆さまと一緒に取り組んで参りますので、皆さまのご理解をお願い申し上げます。



スタッフ
MESSAGE
by K.W

小明町に事務所ができて、早くも4年が過ぎようとしています。皆さまに受け入れて頂けるのだろうか・・・と最初の頃は不安な気持ちもありましたが、月～土曜日に事務所を開けていることが少しずつ皆さまの目に留めて頂くようになり、【佐藤みつのり】への貴重なご意見やご要望をたくさん聞かせて頂けるようになり、大変嬉しく思います。政務活動費の不正な使い方が問題になる事が多く、政治家はみんなそうなのではないか・・・と失望されている方も多いかと思いますが、ぜひ皆さまの確かな目で佐藤議員を見て頂きたいと思います。【佐藤みつのり】の誠実さ・純粋さ・温かさ・情熱が必ず伝わってくるはずです。事務所にもお気軽にお立ち寄り下さいませ。スタッフ一同お待ちしております。